



ありあけ

●発行日 2009年12月1日
●編集 会報編集委員会

●発行 佐賀大学農学部同窓会
住所 佐賀市本庄町1 佐賀大学内

TEL 0952-23-1253 FAX 0952-25-5700
E-mail dosokai@ai.is.saga-u.ac.jp
ホームページ http://dousou.saga-u.ac.jp/

平尾豊徳さん、農水省の消費・安全局長に就任！



平尾豊徳さんは、昭和53年に佐賀大学農学部（農業経営経済学）を卒業、同年農林省に入られ、経理課長などを経て平成20年1月から総合食料局次長に。そして平成21年7月14日付で消費・安全局長に就任されました。8ページに平尾さんの抱負などについて「インタビュー」を掲載しております。

目次

- | | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・平尾豊徳さん、農水省の消費・安全局長に就任..... P 1 ・農学部同窓会の動き..... P 2 ~ 3 第24回佐賀大学農学部同窓会通常総会（H20年度事業実績、H21年度事業計画、会則改正等） ・農学部の動き（農学部主催の公開シンポ開催）... P 3 ・研究室紹介..... P 4 （生物環境科学科浅海干潟環境学研究室） | <ul style="list-style-type: none"> ・会員の広場..... P 5 ~ 7 佐大への提言（Ⅲ） 平山 伸氏 ・会員の情報（博士号取得）..... P 7 若菜章氏、白武義治氏、福田伸二氏 ・インタビュー..... P 8 ・支部だより..... P 8 佐賀県庁支部、熊本県庁支部 |
|--|---|

平成20年度事業報告及び収支決算

事業報告

次の事業を実施し、円滑な同窓会活動に努めました。

- (1) 大学と同窓会との意見交換会を初めて開催。
- (2) 会報「ありあけ」2、3号を発行・配布。
- (3) 大学主催のキャリアデザイン講座や就職ガイダンスの講師として会員を派遣。
- (4) 卒業生等への農学部同窓会長賞の授与。
- (5) 農学部・全学同窓会支部への支援活動。

収支決算

(1) 一般会計

〔収入〕(H20.4.1~H21.3.31) (単位:円)

| 科目 | 20年度実績 | 摘要 |
|---------|-----------|---|
| 前年度繰越金 | 1,446,334 | |
| 会費 | 5,280,000 | |
| 学生(新入生) | 3,740,000 | 入会金(H20)170名×2千円=340,000円 会費(H20)170名×2万円=3,400,000円 |
| 一般会員 | 1,540,000 | 年会費 延140名×2千円=280,000円 終身会費 42名×3万円=1,260,000円 |
| 雑収入 | 4,736 | 預金利息 |
| 計 | 6,731,070 | |

〔支出〕(H20.4.1~H21.3.31) (単位:円)

| 科目 | 20年度実績 | 摘要 |
|-----------|-----------|--|
| 事務費 | 690,572 | 総会案内・各支部総会等出席 |
| 会議費 | 255,275 | 総会資料代、役員会経費 |
| 事業費 | 979,027 | *会報ありあけ発行・送料など(5,100部×2) 558,476円 *名簿情報管理(後納郵便料、人件費、など) 15,618円 *キャリアデザイン講師旅費(1名) 86,716円 *就職ガイダンス講師旅費・講演料 0円 *同窓会旗2枚 50,000円 *会費振込手数料・プリンター代 109,354円 *大学との意見交換会 108,897円 *会長賞 49,966円 |
| 組織強化費 | 150,440 | 各支部総会等出席時の御祝 90,000円 支部助成金 60,440円 |
| 全学同窓会負担金 | 2,244,000 | 新入生入会金・会費の60% 170名(H20年)×(2千円+20千円)×60%=2,244,000円 |
| 特別会計への繰出金 | 1,345,000 | |
| 新入生入会金 | 85,000 | 新入生入会金 170名×500円=85,000円 |
| 会費平準化準備金 | 1,260,000 | 終身会費(42名分) |
| 予備費 | 0 | |
| 計 | 5,664,314 | |



〔差引残〕

(収入) 6,731,070円 - (支出) 5,664,314円 =
1,066,756円(次年度繰越金)

(2) 特別会計(H20.4.1~H21.3.31) (単位:円)

| 科目 | 20年度実績 | 摘要 |
|----------|------------|---|
| 前年度繰越金 | 10,513,366 | |
| 入会金 | 85,000 | 新入生入会金 (H20; 169名)×500円=84,500円 (H17; 1名)×500円=500円 |
| 会費平準化準備金 | 1,260,000 | 一般会計より繰り入れ(終身会費相当額) |
| 雑収入 | 15,038 | 預金利息(普通) |
| 計 | 11,873,404 | |

支出はなく全額次年度へ繰越

監査報告

平成20年度分の会計監査を実施したところ、会計諸帳簿及び証拠書類、預金通帳等いずれも適切に処理されていたことを認めます。

平成21年6月13日

監事 江頭 俊雄

監事 森田 昭



平成21年度事業計画及び収支予算

事業計画

同窓会活動の活性化を図るため、会報の発行による情報提供や、意見交換会の開催など大学と連携した取組みを行います。

- (1) 大学と同窓会との第2回意見交換会の開催。
- (2) 会員名簿管理会議の開催、名簿作成・管理。
- (3) 会報「ありあけ」(4号、5号)の発行・配布。
- (4) 同窓会支部活動に対する助成。
- (5) キャリアデザイン講座等への会員派遣。

収支予算

(1) 一般会計

〔収入〕(H21.4.1～H22.3.31) (単位：円)

| 科目 | 21年度予算 | 摘要 |
|----------------|-----------|---|
| 前年度繰越金 | 1,066,756 | |
| 会費 | 4,840,000 | |
| 学 生 (新 入 生) | 3,740,000 | 入会金 (H21; 170名) × 2千円 = 340,000円 会費 (H21; 170名) × 2万円 = 3,400,000円 |
| 一 般 会 員 | 1,100,000 | 年会費 延100名・年 × 2千円 = 200,000円 終身会費 30名 × 3万円 = 900,000円 |
| 雑 収 入 | 1,244 | 預金利息 |
| 特別会計戻入 | 500,000 | |
| 計 | 6,408,000 | |

〔支出〕(H21.4.1～H22.3.31) (単位：円)

| 科目 | 21年度予算 | 摘要 |
|-----------|-----------|--|
| 事 務 費 | 790,000 | 総会案内、支部総会等への出席 |
| 会 議 費 | 320,000 | 総会資料代、役員会経費 |
| 事 業 費 | 1,320,000 | * 会報印刷代・送料など(5,300部 × 2回) 600,000円 * キャリア講師旅費 90,000円 * 会費納入促進(手数料・トナーなど) 80,000円 * 就職ガイダンス講師旅費・講師料など 50,000円 * 同窓会長賞表彰 50,000円 * 大学との意見交換会 100,000円 * 名簿管理 350,000円 |
| 組 織 強 化 費 | 240,000 | 各支部総会等出席時の御祝 120,000円 支部助成金 120,000円 |
| 全学同窓会負担金 | 2,244,000 | 新入生入会金・会費の60% 170名 × (2千円 + 20千円) × 60% = 2,244,000円 |
| 特別会計への繰出金 | 985,000 | |
| 学 生 入 会 金 | 85,000 | 新入生入会金 170名 × 500円 = 85,000円 |
| 会費平準化準備金 | 900,000 | 会費平準化準備金(終身会費30名分) |
| 予 備 費 | 509,000 | |
| 計 | 6,408,000 | |

(2) 特別会計

〔収入〕(H21.4.1～H22.3.31) (単位：円)

| 科目 | 21年度予算 | 摘要 |
|----------|------------|--|
| 前年度繰越金 | 11,873,404 | 一般分 9,023,404円 会費平準化準備金 2,850,000円 |
| 入 会 金 | 85,000 | 新入生入会金 (H21; 170名) × 500円 = 85,000円 |
| 会費平準化準備金 | 900,000 | 終身会費 30名 × 3万円 = 900,000円 |
| 雑 収 入 | 6,596 | 預金利息 |
| 計 | 12,865,000 | 一般分 9,115,000円 会費平準化準備金 3,750,000円 |

〔支出〕

同窓会事業の円滑な運営を図るため、総会の承認を経て特別会計から一般会計へ50万円を戻入れました。

〔差引残〕

(収入) 12,865,000円 - (支出) 500,000円 =
12,365,000円(次年度へ繰越)

会 則 改 正

【会費に関する会則の改正】

改正前：年額2千円。なお、一括3万円以上納入した場合は、終身会員とする。



改正後：年額2千円。なお、一括3万円以上納入した場合は、終身会員とする。

ただし、70歳以上は1万5千円

農学部の動き

農学部主催の公開シンポジウム開催

このシンポジウムが6月13日(土)に、農学部大講義室で開催されました。演題と講演者は次の通り。

1. 新しい茶成分の発見と構造解析 先端分析機器の活用 石丸幹二教授
2. ダイズ突然変異体研究ライブラリーを利用した新規育種素材の開発 「温故知新」突然変異体研究の新展開 穴井豊昭准教授
3. 資源循環型地域づくりは文化と社会の理解から NGO との連携によるマンマー連邦での実践活動を事例に 五十嵐勉准教授
4. カビを殺すにはアミノ酸がいくつ必要? 小ささへの挑戦! 上田敏久准教授

シリーズ④
研究室紹介

生物環境科学科 浅海干潟環境学 研究室

近年、有明海の環境悪化は大きな社会的関心事であり、有明海における環境異変の解明や生態系及び水産資源の回復に向けた早急な取り組みが求められています。本研究室は、有明海奥部の干潟～浅海域を対象に、浅海干潟域の水質及び底質の環境調査や干潟の再生と有効利用について研究しています。現在、教員は瀬口昌洋教授（理事兼務）と私、郡山の2名で、主な研究課題は、1). 有明海奥部における貧酸素水塊の発生機構の解明とその防止に関する研究、2). 有明海奥部干潟域における窒素循環の解明とそのモデル化に関する研究、3). 泥質干潟域底泥の温熱環境とその底生生物の活動への影響に関する研究、4). 底質改善剤による有明海奥部の汚泥化底質の修復・再生に関する研究などです。

有明海の現地調査は、漁船を借りて研究室の男子学生総出で海に出かけます。海の調査では、ハプニングがつきもので、学生と色々な体験をしました。例えば、帰港する時間が予定より少し遅れてしまい、気温3～4℃の夜の海上で潮が満ちてくるまで漁船で待機したり、調査の途中で海が時化^{しげ}てひどい船酔いの中、船上作業をしたり等です。なかなか日常生活では経験しない貴重な体験な



現地調査の終了



有明海底泥の採取

ので、卒業後、同窓会などでこの体験を酒の肴に学生時代を懐かしんでもらえたら、これ幸いです。

ここ数年の就職状況は、地方公務員（農業土木）、建設コンサルタント、プラントエンジニア、浄水器メーカーなどの技術職の他に、営業職やサービス業などに就く学生も年々多くなっているような気がします。これから社会人となる学生には、佐賀大学で培った知識と経験を糧に大きく社会に踏み出すことを期待しています。卒業生の皆様には、これまで同様、学生を温かい目で見守って頂けますと幸いです。

郡山 益実（浅海干潟環境学 平成7年卒）



謝恩会後の研究室の飲み会



有明海の夕日を背に現地調査

会員の広場

佐大への提言(Ⅲ)

横浜市 平山 伸

(S60年卒・生物化学)

数年前まで佐大をはじめ国内外の大学へ行く機会を得た経験から、佐大の更なる活性化のため外から見た佐大について感じたことを紹介する場として本誌3号から寄稿させて頂いているが、各方面からご意見も寄せられ、議論する内容として認知されつつあることは望外の喜びである。今回は3回目であるが、初めて読まれる方は本誌3号からお読み頂ければ幸いである。

1 蚊駆除を目的とした水域有害虫防除研究センターの設置

数年前にNHKの全国ネットTVで佐賀平野クリークの紹介があり、佐賀市役所の方がクリークからピーカーに水を採取したところ無数のボウフラが観察された映像があり、蚊の低減化技術の開発は佐賀平野の長期的課題であると改めて認識させられた。そこで蚊の駆除と疾病予防等の技術を研究開発する「水域害虫防除研究センター(仮称)」の設置を提案したい。ボウフラを餌とする天敵となる魚類の大量栽培拠点の設置とクリークへの供給、超音波を利用したボウフラ駆除技術の開発、伝染性疾患の迅速検査法の開発等、農学・理工学・医学の分野に跨る研究が想定される。

HPを検索するとメダカはボウフラの天敵のようなので、メダカの大量栽培方法の確立も視野に入る。山形県ではメダカを大量栽培し、食用としている地域もあり、これらのメダカ栽培法の知見も参考になる。また、ヤゴもボウフラの天敵とのことで、どのような種類のヤゴ(トンボ)がボウフラの天敵として捕食効率が高いかを検証することも興味を注がれる。このような検討からボウフラの天敵種を選定し、天敵種を百kg・t/年の規模で増殖させる装置を開発・設置し、この生産拠点から佐賀平野全体のクリークに天敵種を移植してもらうことが想定される。これらの天敵利用によるボウフラ個体数の制御はトンボやメダカを用いた町おこしとしても賛同が得られやすく、環境教育の題材としても受け入れやすいと考えられる。なお、これまで佐賀市が「ふるさと創生1億円事業」で神野公園にトンボ池を造成し、ヤゴの放流や啓蒙活動を継続されているが(詳細は2009年5月8日朝日新聞佐賀版を参照されたい)この取組みとのコラボレーションも想定される。

市町村合併前の佐賀市内だけでもクリークの長さは2,000kmとも云われており、この広範囲の環境改善を目指すには、大学と市民の協力の元、長期的取組みが必要であり、既存の佐賀環境フォーラムや低平地研究センター等での取組みとして具現化していくことも選択肢になる。また、同じような課題を有

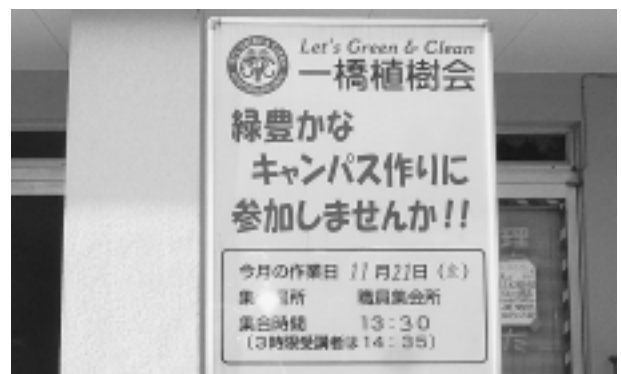
する地域も国内外で多いと予想され、疾病予防に直結するこれらの取組みはローカルな課題を世界展開する佐大の戦略にも沿うのではないかと考えられる。

2 佐賀の杜モデル空間形成へのシナリオ

本誌ありあけ3号にて、佐大キャンパス内での「水辺を配置した佐賀の杜モデル空間の形成」について提言させて頂いたが、その実現や佐大関係者の意識高揚に繋がる事例を紹介したい。

一橋大学では一橋植樹会という組織があり、「国立(くにたち)キャンパス100年の森プロジェクト」として緑化推進、環境整備・保全を啓蒙しており、個人年会費3,000円、団体の年会費10,000円、及び学生は無料となっている。団体としてキャンパス緑化を推進している点、更にネーミングから長期的展望を有していることは参考になる。詳しくは添付写真と共にHP(<http://jfn.josuikai.net/circle/shokujukai/>)を参照されたい。また、東京学芸大学では「グリーンアドベンチャー」という樹木名を連想させる案内板が日本宝くじ協会から寄贈・設置されており、キャンパス内の樹木や自然への学習の場として活用しつつ、樹木の維持にも力を注いでいる。この事例は外部資金を活用した樹木維持と教育利用の観点から参考になる。その様子を添付写真にて参照されたい。

一方、佐大ではキャンパスの樹木の種類、分布、本数等に関して大学は管理・把握できているだろうか?もし、把握できていないなら、文化教育学部や農学部の卒論のテーマとして取り上げ、大学キャンパスの植樹促進の基礎データとして活用することも面白い。更に、大学キャンパスを洒落た空間に仕立てていくには、例えば樹種として枝垂桜やモミジ等を戦略的に選定していくことも想定される。例えば、



佐大を訪れた人が最初に目につきやすい地域学歴史文化研究センター付近、旧制佐高の校章がある小苑、農学部案内板前の複数箇所にてこれらの樹種を植樹することはインパクトが大きいと考えられる。

これらの取組みは、有明海沿岸の「干拓地」や「どん³の森」で漸く取組みが始まった植樹活動にも刺激を与え、単なる植樹活動から緑陰による憩いの場形成を意識した取組みに繋がっていくものと考えられる。

3 スポーツ選手機能向上センターの設置

佐賀県では、サッカー(サガン鳥栖)、バレーボール(久光製薬)、ハンドボール(トヨタ紡織九州)、ソフトボール(ダイワアクト)、ヨット(唐津市)等のスポーツが展開され、国内でもトップクラスのスポーツの拠点になっている。しかし、これら選手の能力強化やリハビリ支援の施設や研究が脆弱で、需要とのミスマッチを感じる。佐賀県に拠点を持つこれらスポーツ選手の能力強化の運動解析やリハビリ支援はどこの大学が寄与しているのか調査してみるのは興味深い。九州では福岡大学スポーツ科学部、鹿屋体育大学体育学部、福岡教育大学体育研究センターも考えられるが、地域に立脚する大学として佐賀大学文化教育学部スポーツ選修、医学部、大学院生体機能システム制御工学専攻の協力体制で、運動力学、流体力学、生理学等の視点からのスポーツ選手の機能・能力強化支援ができないかと考える。また、これらの成果は寝たきりの高齢者防止への展開も考えられ、長期的にもデータの活用が期待される。なお、2009年3月2日の日刊工業新聞では、佐大医学部整形外科での人工関節の開発に、理工学部をはじめ九州大学工学部等の13の研究室が関わっていることが最前線の研究として大きく報じられたが、想定するスポーツ選手の機能向上センターの取り組み内容としてこれら医学部整形外科の取組みも参考になろう。

更に、私事であるが、かつて化学工学会編集委員にて、スポーツ科学の流体力学等の視点から「スポーツの進歩を支える化学工学」として化学工学2008年5月号にて各種スポーツ科学の研究や器具開発等の取組みを企画し、国内10箇所の先生方に取り組みを紹介頂いたことがあり、本稿に関し更に興味を示された方は参照にされたい。

4 キャンパスや広報場所の美化

本庄キャンパスを歩いていると抜本的な美化推進の必要性を感じる。以前、当時の学長が県知事と学内を歩き、くすんだ建物を指摘され塗装により印象がガラリと変わった経緯が記憶に新しい。外部から佐大を見ていると同じようなことが多岐に見受けられるため、批判めいて恐縮な心地もするが敢えて取り上げたい。

まず、大学法人本部前の傾いたテニスコートのフェンスである(添付写真参照)。大型台風でテニスコート周辺の樹木が倒れ、同時にフェンスが傾いたものであるが、国内外の要人をお迎えする大学法人本部前の場所で、このような傾いたフェンスを放置していることは民間では理解できない事象である。



危険な状態ではないので放置しておくことにある程度の理解もするが、せめて工費を掛けずとも日曜大工的な対応で垂直に補修したいものである。他の事例としては、大学中央に位置する図書館の東側壁面の汚れである。きれいな図書館であるため、余計に汚れが目立っているものであるが、業者に依頼しなくても市販の自給式音波ブラシ等を使ってきれいにしたいものである。他には雑草だらけで朽ち果てたテニスコートも、なんとかきれいにしたい。

H20年8月のオープンキャンパスにおいてH19年比で千人もの高校生来場者が増えたにも拘らず、大学全体として志願者増加に結びついていない点は、このような箇所を高校生が見抜いて佐大に対する印象が低下したのではとも懸念するものである。

更に学外に目を移すと、佐賀駅に佐大の広報誌が置かれているが、残念ながら、「佐賀大学」の貼付が剥がれかけており(2009年4月撮影の添付写真参照)外部の者には良い印象を与えない。他にも気が付くところは多数存在するが、受験生減少下でより多くの受験生を得るには、第一印象を良くすることは重要な要素であり、佐大の隅々に「愛情」や「気遣い」が感じられる大学にしていくことが肝要であろう。



5 成功事例の情報共有化による競争的資金獲得の向上

国立大学が独立法人化され、競争的資金獲得を増大させることは、喫緊の課題である。月刊誌「ZAITEN」2009年7月号によれば、09年の佐大の運営交付金は国立大学(86校)で34位、科学研究費補助金(科研費)50位となっており、佐大の規模からはやや苦戦

しているといえよう。勿論、競争的資金は他にもあり、佐大ではNEDO 資金や科学技術振興調整費も獲得しており、これだけを指標にランキングして大学を評価するのは当を得ない面はある。

一方、佐大のHP からは科研費等の競争的資金の説明会が学内で開催され競争的資金獲得増大に尽力されていることが伺えるが、科研費等の競争的外部資金を増やす工夫を更に鮮明化していく必要性を感じる。例えば、これまでに獲得した競争的資金申請書の内容を複数の眼で分析し、パワーポイントにまとめ大学全体で共有化する仕組みを提案したい。

書店に並ぶ企業分析書によればトヨタでは、失敗事例や成功事例を「なぜなぜ分析」し、「真の要因（真因）」を共有化しているという。佐大でも競争的資金申請について、申請段階、成果物報告段階、獲得した後の経理処理段階、監査対応等、段階ごとに成功や失敗事例の真因分析結果を共有化していくと、資金獲得増加と共に教官や事務職員の負荷を下げることに直結すると考えられる。なお、競争的資金の審査員経験者によると、不採用案件では申請書に「研究題名が記載されていない」、「研究題名

が研究内容とマッチしていない」、「内容説明が専門用語の多い文字だけの羅列となっている」、「予想される結論が無い」、「検討という曖昧な表現が多用され何をするのか明示されていない」等、ごく当たり前のことができていないものが多いという。これらの教訓を更に鮮明化するためにも上記真因の共有化が必要と考える。更に、各種財団からの資金情報に関しては、関連HP等を単に連絡するのではなく、特徴（獲得しやすさ、要求される成果物の質量等）を一覧表にして情報共有化して真に使えるデータにしていくことも重要になる。

また、佐大には海洋エネルギー研究センターやシンクロトロン光応用研究センター等、他の大学には無い設置成功事例があることは強みであり、このような成功事例の真因を徹底分析することも競争的資金獲得増大へのヒントになるものと考えられる。

いずれにせよ大学の教官や事務員個人の競争的資金獲得ノウハウを集約し、分析を加え大学として情報共有化していく取組みを強化することで、資金的にも潤沢な大学になることを願うばかりである。

会 員 の 情 報 (博士号 取得)



若菜 章さん
(S51年卒・園芸工学)

- ①Studies on regulatory mechanisms underlying adventive embryogenesis in *Citrus* (Rutaceae): カンキツ属 (ミカン科)における不定胚形成制御機構に関する研究
- ②農学博士
- ③九州大学 (昭和63年)
- ④カンキツの珠心胚形成は受粉や受精と関係なく起るが、珠孔側の胚発育には胚乳が必要であり、合点側では胚乳が胚発生を抑制することなどを明らかにした。
- ⑤九州大学大学院農学研究院准教授

| | |
|---------|---------|
| 学位論文名 | 取得学位 |
| 学位授与大学名 | 学位論文の概要 |
| 現勤務先 | |



白武 義治さん
(S51年卒・農業経営経済学)

- ①「地場・地域市場に対する農協共販の形態と条件に関する研究」
- ②農学博士 (1985年)
- ③九州大学
- ④本研究では、農産物流通における地場・地域流通の意義、地場・地域市場に対する農協共販の類型化、その形態別にみた市場対応条件について実証的に分析した。まず、地場・地域流通の意義を産地・農家、流通業、消費者視点から統計的、実証的に検討した。また、九州の都市、都市近郊、平坦農村、中山間地域に散在する産地・農協を事例に、地域拠点卸売市場への一点集中的共販、地域内多数卸売市場への多元的共販、遠隔地市場も含む広域市場への大型共販などへ類型化し、さらに、協同組合間協同により市場外流通をとる複数農協と生協を対象に地場・地域流通復権に果たす市場対応の形態と条件を検討した。
- ⑤佐賀大学農学部



福田 伸二さん
(H7年卒・植物ウイルス病制御学)

- ①ピワの分子マーカーの開発と早期選抜に関する遺伝・育種学的研究
- ②博士 (農学)
- ③鹿児島大学大学院連合農学研究科
- ④本研究は長崎県の特産果樹であるピワの育種を効率化するために、果肉色などの重要形質の遺伝解析と幼苗段階で目的形質を選抜できるDNAマーカーの開発を行ったものである。開発した技術を交雑育種に活用することで育種が進み、ピワの優良品種が効率よく育成されるものと考えている。
- ⑤長崎県農林技術開発センター果樹研究部門

インタビュー

——平尾さん、消費・安全局長ご就任おめでとうございます。農学部同窓会一同も心から喜んでおります。早速ですが抱負や今後の取組みについて

『世界の食料需給逼迫や飢餓人口の増加（10億人）が深刻化しています。地球温暖化による農業生産の不安定化や新興国の経済発展による需要急増など、更に多様な要因が絡んでくることが予想されます。世界の食糧問題は、今後、複雑でしかも気を抜けない課題となっています。』

こうした安定供給の問題に加え、食品の安全確保が重要になっています。生産環境や加工、流通工程が多様化・高度化し、食生活スタイルも変化する中で、食品安全のリスクが大きくなっています。生産流通過程での有害微生物の発生や新たな有害化学物質の含有などが確認され、消費者の健康を脅かすリスクが課題となっています。これらは、食品の生産段階から食卓までの各段階において、より一層慎重で的確なコントロールが求められます。

また、食品の種類や品質などの面において豊富になる一方で、食品の生産現場と食生活の距離が大きくなっています。消費者が安心して食生活を営んでいただくためには、生産者など供給サイドは、食品情報の提供や消費者とのコミュニケーションなどに、これまで以上に配慮が必要になっています。

食は一日も欠かすことのできない国民生活の基本

です。国民の一人ひとりの将来の健康と未来の子供たちにも影響するものです。しかし、食事は日常的であり、私達は消費者としては、普段は、身近なあまり、それほど気に止めずにいることが多いものです。私ども、農林水産業や食品の供給に関わるものとしては、将来にわたって消費者が安全な食品を安心して楽しんで頂ける環境を確保することを念頭に、取り組まなければならないと考えています。

このため、食料の生産から消費の現場やその変化の実態を正確に把握し、科学的なデータに基づいて、科学的な論理や手法を活用し的確に対応することが何より重要です。将来を冷静に見据えたバランスのとれた施策を検討することも大切だと考えています。』

——佐大時代の思い出を

『佐賀大学農学部では、蓮の田んぼなど緑に囲まれた環境で、比較的自由な大学生活でした。その中であって、先生方や先輩諸氏が、農業の生産性向上や食品の品質向上などのため、熱い情熱を持って研究されている環境に浴することができたことを感謝しています。特に、講義では、穏やかでユーモアの中でも、先生方の冷静で科学技術や研究に対する厳格な姿勢が感じられました。また、ゼミでの厳しい指摘や先生方のやり取りには、畏れを感じることもありました。今となっては遅いかもかもしれませんが、「少年老いや早く学なり難し...」の思いひとしおです。』

——有難うございました。ご活躍をお祈りします。

支部 だより

佐賀県庁支部の総会開催

佐賀県庁支部では、9月4日、若楠会館において、会員約50名が参加し、平成21年度の総会を開きました。平成20年度の事業実績や平成21年度の事業計画などを協議し、さらには、4月の定期異動に伴う新役員の選任を行いました。

また、農学部同窓会の松尾会長にご出席をいただき、農学部同窓会の最近の動きを中心に話題提供をしていただきました。

この他、農学部同窓会からの助成金を有効に活用するとともに、多くの会員に参加していただくため、抽選で図書券を配布する取組を行いました。

懇親会では久しぶりに顔を合わせる会員や、今年度の新規会員を迎え、盃を交わしながら仕事や趣味、遊びの話など会話が弾み、楽しい時間を過ごしました。



式町 秀明（S54年卒・畜産学）

熊本県庁支部

熊本県庁佐賀大学農学部同窓会の平成21年度通常総会を熊本市内の「交通センターホテル」で開催しました。当日は農学



右から 山本 秋夫氏・西村 賢了氏
白武義治先生・大田黒慎一氏

部同窓会から来賓として白武先生のご臨席を得、大学の近況等のご挨拶とともに熊本県同窓会支部旗を頂戴いたしました。今後はこの旗のもと会が開催できることを一同大変喜んでいました。

会計報告や監査報告、役員改選があり山本秋夫会長（S48年卒・農業土木）の後を受けて大田黒慎一（S50年卒・園芸）が新会長に、立場久雄さん（S51年卒・作物）が監事、坂本豊房さん（H10年卒・細胞）が事務局を引き続き担当いただくことになりました。

総会の後、3月末で退職された元会長西村賢了さん（S46年卒・農芸化学）の激励会と懇親会が開催されました。会員は現職48名、OB16名で当日は30名余りの出席がありました。一年あるいは数年ぶりに会う仲間達ばかりですが、農学部同窓会から頂戴した支部旗を前にグラス片手に記念撮影をしたりと、にぎやかに会は進みました。

大田黒慎一（S50年卒・果樹園芸学）